



今年もあつい！

高品質米生産めざして！ 登熟期の適切な水管理を徹底しましょう！ 適期刈取りと適切な乾燥調製につとめましょう！

気象庁の1か月予報によれば、茨城県の7/26～8/25の平均気温は高い確率70%の見込みです。かなり暑い日が続くことが予想され、昨年、一昨年同様高温による玄米品質の低下（落等）が懸念されます。高品質米生産のためには、適切な水管理をこころがけましょう。また、今年の出穂期は昨年より2～3日遅いか同じくらいですが、暑さのため収穫適期が早まることも考えられます。刈遅れにならないように注意しましょう。

1 登熟期（出穂期から成熟期）の適切な水管理の徹底！

7月7日発行第3256号「高温障害対策で品質のよい米づくりをめざしましょう」で詳しく述べましたが、水稻の根の活力を維持し、十分な吸水ができるように、適切な水管理を徹底しましょう。

出穂期後30日間は落水を避け、間断かんがい（入水を止めて自然落水とし、田面が乾く前に入水）を行いますが、この時期は玄米の成熟にとって大変重要な時期ですので、田面が乾かないように十分注意します。田面に土が見えるようになり、みぞや足あとに水が残っている状態で入水しましょう！（ほうすいかんり 飽水管理 写真）。



2 適期収穫で玄米品質の向上を！

登熟期（出穂期から成熟期）が高温の年は、白未熟粒（乳白粒、背白粒、基白粒など）だけでなく、胴割粒の発生が多くなります。特に刈り遅れるとさらに多くなりますので、適期の収穫が大変重要です。

コンバインによる収穫に適した時期は、穂首近くに緑色を残したモミ（たいりよくもみ 帯緑粳）が10～5%程度の時です。収穫時期が近づいたら、平均的な生育の株の穂を観察して、表1を参考に収穫作業の計画を立てます。特に経営規模の大きい方は、収穫作業をやや早めに開始し、作業が後になるほ場が刈り遅れにならないように工夫します。出穂期別の「穂首近くに緑色を残したモミが10%になる時期」の目安は表2の通りです。気温等によって変わります（暑いほど成熟は早くなる）ので、ほ場をよく観察して適期を逃さないようにしましょう。

表1 帯緑粳率による収穫適期判定目安

帯緑粳率(%)	収穫適期
20	6～7日前
15	4～5日前
10～5	適期
3	刈り遅れ

表2 帯緑粳率10%になる出穂期後日数の目安

出穂期	出穂期後日数
7月下旬まで（あきたこまち、ふくまるなど）	33～35日
8月上旬（コシヒカリなど）	40日ころ
8月上旬（にじのきらめき）	45日ころ
8月中旬（あさひの夢など）	45日ころ

※出穂期とは、圃場全体の穂の40～50%が出穂したとき。

3 適切な乾燥調製で玄米品質の向上を！

- 1) 収穫作業は、もみ水分が25%以下まで乾いてから行います。もみ水分が高いほど、また高温であるほど変質しやすいため、収穫後はできるだけ早く（4時間以内に）乾燥機にはりこみましょう。
- 2) 乾燥機の送風温度が高いと胴割粒が多くなります。送風温度は40℃以下になるように調整します。
- 3) 胴割粒の発生を防ぐには、まず常温通風や低温での加熱乾燥により水分を17～18%まで乾燥させ、半日から1日程度貯留して水分の均一化を図り、その後再度加熱乾燥して水分15%に仕上げる「二段乾燥法」が有効です。仕上がり水分が13.5%前後と低くなると胴割れ粒が多くなりますので注意します。
- 4) もみすりは、穀温が外気温程度まで低下してから行います。温度が高いと肌づれ粒、胴割粒、砕粒が多くなります。
- 5) 白未熟粒や被害粒は粒厚が薄いものが多いので、1.85mmのふるい目を用いて、適正な流量による丁寧な選別で除きます。特に本年は、高温による白未熟粒や被害粒が多いほ場も予想されるので、丁寧な選別や色彩選別機を活用して、整粒歩合を高めましょう。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。
- 宮農 News は JA 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。